

服部で、より深い学びへ。



公式サイト▶



note▶



 公益財團法人
服部国際奨学財団
since2008



公益財團法人
服部国際奨学財団
since2008

自身の 成長のために、 服部奨学金を 活かして ください。

since 2008

「高精度なX線望遠鏡を開発し、太陽の謎を解明したい」
「多様な社会をめざしてハラール食の普及に取り組みたい」
「清朝の国家儀礼を通じて当時の権力構造を明らかにしたい」
高邁な志がありながら、経済的理由により
研究を突き詰めていくことが困難な学生に対し、

返済義務のない月額10万円を給付する制度、それが服部奨学金です。
学業や研究に専念できる環境をつくり、
学生たちの大いなる向上心を支えていくことが
我々、服部国際奨学財団の使命です。

＜服部奨学金を活用した自己実現例＞

- 海外の医療機関で研修し、最先端の医療技術を身につけた
- 機材環境を整えたことで、自宅でもデータ解析に取り組むことができた
- 弁護士事務所でのインターンに参加し、実務経験を積んだ
- 生活が安定し学業に専念できたことで、研究者の道を拓くことができた
- エジプトで行われた気候変動の国際会議に、若者代表として登壇した
- 学習支援ボランティアに参加し、教員の素養を積むことができた

X線望遠鏡の 性能向上に挑み、 未知なる宇宙の謎を 解き明かす。

小学生の頃から宇宙の謎を調べることが好きで、研究者に憧れを抱いてきました。

天文部に所属していた高校時代、名古屋大学で研究発表を行ったことをきっかけに、同大学理学部に進学を決意。研究者への道を歩み始めました。

現在、日米連携のロケット実験に搭載するX線望遠鏡の開発を行っており、私たちの生活にも影響を与えている太陽の謎の解明をめざしています。

宇宙の姿を紐解くには、宇宙を映し出す『目』となる望遠鏡の高精度な評価方法の追求が欠かせません。私は開発した望遠鏡の性能を評価する役割を担い、何度も実験を繰り返しながら性能の数値化を行っています。

服部奨学生によって、曜日・時間を問わず自由に研究に取り組めることが何よりありがたいです。

一方で研究に集中し過ぎるとどうしても視野や人間関係が狭くなり、社会状況にも疎くなりがちに。

そんな中で幅広いバックグラウンドを持つ服部奨学生との交流から新たな発見が得られ、楽しみにも繋がっています。

今後はこれまでの開発で培ったノウハウを発展させ、天文衛星に搭載する高性能な望遠鏡の開発へとステップアップしていきたいと考えます。

宇宙の謎の解明に少しでも貢献できれば、これほど嬉しいことはありません。

安福 千貴

第13期服部奨学生 2021年～
名古屋大学 理学研究科
博士前期課程 理学専攻





国を超えた
共通点を見出し、
アジアの平和共存の道を
探る手がかりに。

母国の中華を離れ、大学で学ぶためにアメリカで過ごした4年間は、アジアン・アイデンティティについて考えざるを得ない日々でした。

アジア諸国の人々が負の連鎖を断ち切り、同じアジア人としての共通点を見つけ出すことはできないか。その想いが私を近代アジア思想史の道に駆り立てました。

卒業後、本格的に研究に取り組むために日本に渡り、早稲田大学の大学院へ進学。

尊敬する教授がいたこと。そして中学の頃から小説を愛読し、強い影響を受けてきた村上春樹先生の母校であったこともこの大学を選んだ大きな理由です。

歴史学の命は史料であり、その入手や読み解きに多くの時間を要します。

服部奨学生のおかげでアルバイトを最小限に抑えられ、世界各地の史料館訪問、史料収集をはじめ、シンポジウムや学会の参加など研究活動に専念できています。また、国籍や研究分野の異なる服部奨学生と交流する機会も多く、ふだん得られない刺激を受け、多くの知見を深めることもできました。

将来は博士号を取得し、一人前の研究者として大学の教員になることが目標です。

私の経験や知識を、未来を担う若い人々に伝えることで、日本と中国、さらにアジア、世界における眞の平和共存の道を探る一助になればこれほど嬉しいことはありません。

章 格誠

第12期服部奨学生 2020年～
早稲田大学 大学院社会科学研究科
博士後期課程 地球社会論専攻

ハラール産業の 発展を促し、 多様な文化が共生する 社会に貢献する。

実際に日本で暮らしてみると、イスラム教徒は食生活の面で大きな問題に直面していることがわかつてきました。豚肉及び豚関連原材料は食料品によく使用されていますが、原材料名が英語で表記されていることはほとんどなく、ハラールマークがあることも非常にまれです。

イスラム教徒にとってより安全な環境の提供と、食品加工業の発展をめざし、日本のハラール産業についての研究を開始しました。

現在は国内食品産業におけるハラール認証の現状について基礎データを収集・整理し、実態を考察。研究の成果を普及に繋げ、多様な文化が共生する社会づくりをめざしていきます。

服部奨学生によってさまざまな学会に参加することができ、より多くの人と触れ合うことが可能になりました。専門分野における最新情報や異なる文化と価値観を知ることで、多角的な視点の涵養に繋がっています。

大学院修了後は、日本の食品業界で就職し、国内でのハラール産業の発展に、さらなる貢献を果たしていきたいと考えます。

「食」を通じて、多文化共生社会の実現に寄与することが、私の目標です。

グリミラ ラフマン

第15期服部奨学生 2023年～
名古屋大学 生命農学研究科
博士前期課程 植物生産科学専攻





「人形とは何か」を
問うことは、
「人間とは何か」を
問うことでもある。

私は、学部生の頃から現在まで、人形演劇に関する研究をしています。

そのきっかけとなったのが、岐阜県美濃市大矢田の「ひんここ舞」との出会いです。

地元の民俗芸能を紹介する課題が出た際に、軽い気持ちで見に行ったところ、「人形劇ってこんなに面白いんだ！」と、一瞬で魅せられてしまいました。

人類学のように、定期的なフィールド調査を中心とする学問では、資料となる書籍を買うだけではなく、交通費・滞在費の負担が大きくなるので、服部奨学生なしでは今日まで研究を続けることはできなかったと思います。

現在私は、古今東西の多種多様な人形演劇を総じて、きわめてリアルな人型ロボットといった実践まで、人型造形物としての人形を巡る人類の営為を、モノの人格・生命性の発現として捉えなおす試みに取り組んでいます。

研究を進める中で、「人形とは何か」という問いは、「人間とは何か」という根源的な問いと繋がっていることを強く実感するようになりました。

将来は大学の教壇に立つ研究者をめざしています。険しい道ですが着実に実績を重ね、研究者として身を立てていくことが、服部国際奨学財団への恩返しに繋がると信じています。

山中 海瑠

第9期服部奨学生 2017年～2023年
名古屋大学 人文学研究科
博士後期課程 文化人類学専攻
日本学術振興会特別研究員DC1
(2023年～)

「儀礼」という 文化的営みから、 中国最後の王朝の 権力構造を解き明かす。

高校時代に読んだ書籍を通じて、東洋史のスケールの大きさ、特に明から中国最後の王朝である清へと時代が動いていくさまに魅了されました。

学部では、比較史・社会史的な観点から当時の社会の全体像に迫ろうとする歴史学に魅力を感じ、お茶の水女子大学の比較歴史学コースへ進学。

清朝の国家儀礼研究に取り組みました。

大学院では、清朝の元旦儀礼に特有の「皇太后拝礼」、「賜茶」等の異民族的要素に注目し、儀礼の成立にどのような政治的要因が働いていたのかを明らかにしようとしています。

将来は広い知見と深い洞察力を備えた研究者となり、大学で教鞭を執ることによって日中交流における歴史学的教養の重要性を提起していくのが目標です。

それは、「わが国と諸外国との友好親善に寄与する」という服部国際奨学財団の理念にも通じることだと感じています。

専門知を市井の方々へ還元したいという想いから、大学院での研究だけでなく、今回の撮影地である「東洋文庫ミュージアム」でのスタッフ勤務もしています。来館者のみなさまや、ミュージアムの方々との関わり合い、そして服部奨学生との交流が、研究に打ち込むためのモチベーションになっています。

野田 彩乃

第15期服部奨学生 2023年～
お茶の水女子大学 博士前期課程
人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻



服部国際奨学財団とは

服部国際奨学財団には2つの特徴があります。

給付型奨学金

次代を担う学生のために私財を使いたい。

創設者の想いが返済不要の奨学金を生みました。

中古車オークション事業で成功を収めた実業家・服部 太(1936-2011)が、
未来を担う人材を育成するため、優秀な学生に対する奨学・援助と、
諸外国との友好親善を目的に私財を投じて設立した公益財団法人です。



株式会社ユー・エス・エス
創業者 服部 太

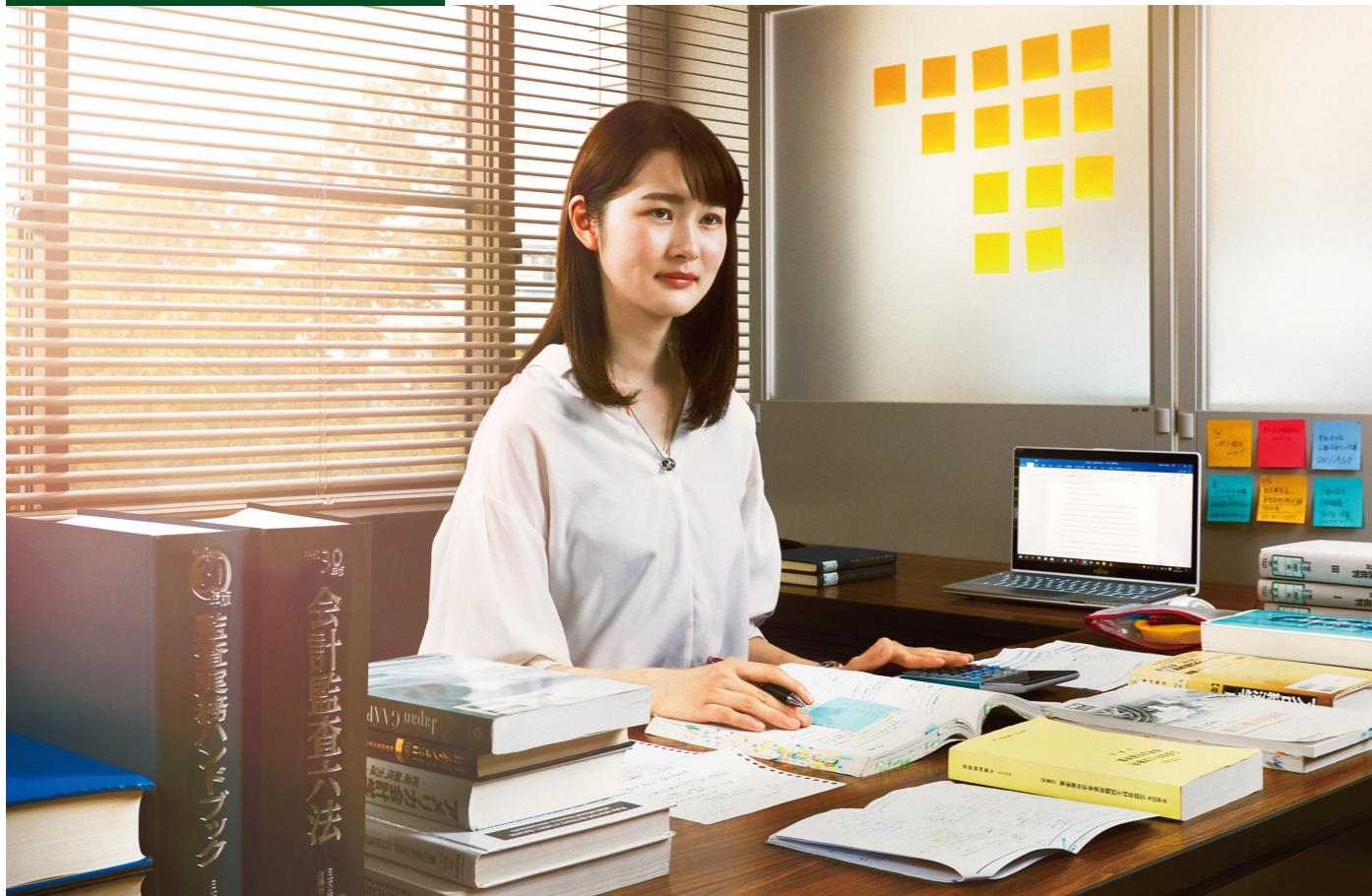
公式行事と多彩なイベント

服部国際奨学財団では講演会、研修旅行など年間を通じて数多くの行事を実施しています。国籍、研究分野の異なる服部奨学生やOBOGとの交流を通じ、絆を深めながら多様な価値観に触れることで、柔軟な発想で未来を切り拓いていく力を養う機会にしていただきたいと考えています。

since 2008

EVENT SCHEDULE											
Apr.		May.		Jun.		Jul.		Aug.		Sep.	
<p>・春季服部奨学金授与式</p>		<p>・研修旅行【夏】</p>		<p>・研修旅行【夏】</p>		<p>・研究発表会</p>		<p>・研修旅行【秋】</p>		<p>・秋季服部奨学金授与式</p>	
<p>Oct.</p>		<p>Nov.</p>		<p>Dec.</p>		<p>Jan.</p>		<p>Feb.</p>		<p>Mar.</p>	
<p>・研修旅行【伊勢】</p>		<p>・ハロウィンイベント</p>		<p>・ハロウィンイベント</p>		<p>・ハロウィンイベント</p>		<p>・文化講演会</p>		<p>・修了式</p>	
<p>・研修旅行【京都】</p>		<p>・研修旅行【京都】</p>		<p>・BBQ親睦会</p>		<p>・メンター座談会</p>					
<p>・研修旅行【京都】</p>		<p>・研修旅行【京都】</p>		<p>・BBQ親睦会</p>		<p>・メンター座談会</p>					
<p>他にもさまざまな行事があります。</p>											

第8期服部奨学生 2016年～2020年



企業に貢献する公認会計士として、 世界をフィールドに活躍する。

高校生の頃から社会や経済に関心があり、名古屋大学経済学部に進学。会計や経営学を学ぶにつれて、社会を動かしている企業へと関心が移り、「企業の成長を支える仕事がしたい」という想いが強くなっていました。大学卒業後は、公認会計士として、第三者目線で財務書類の妥当性を検証し、保証する「監査」と呼ばれる仕事に従事しています。2023年10月からは、アメリカのSilicon Valley(シリコンバレー)へ赴任が決まり、主に日系企業の海外子会社を担当しています。現在の長期的な目標は、海外対応に秀でたマネジャーとして、日本を代表する企業グループの監査を主導すること。目標の実現に向け、当面は現場リーダーとして自ら最前線に立つ

ことで、日々の業務を通して、監査人としての「感度」を磨いていきたいと思っています。国家資格試験や、短期海外インターンなど、眼前の壁と一つひとつ必死で向き合うことで、気がつけば遠かったはずの夢に辿り着いていました。振り返ると、服部国際奨学財団との出会いが、人生のターニングポイントでした。何かをめざす強い志は、抱く者の境遇までもを変えていく力を持っています。服部奨学金は、その志を強く後押ししてくれました。

第5期服部奨学生 2013年～2016年



英国での博士号取得へ。 グローバルな研究者としての一歩を踏み出す。

「世界で活躍する研究者になりたい」という夢を胸に、名古屋工業大学に進学。入学後は、英語力を向上させたいと考え、英会話教室でアルバイトを始めましたが、思ったように効果が出ず、アルバイトに割く時間は徐々に学業へ影響し始めました。そんなときに手を差し伸べてくれたのが、服部国際奨学財団です。服部奨学金のおかげで、質の高い英語学習を受ける経済的・時間的余裕が生まれ、英語力を飛躍的に向上させることができました。さらに、アルバイトの時間を論文の精読や実験に充てることで、多くの研究に携わり、自己研鑽できたことが、後のキャリアにも繋がったと思います。大学院修了後は、旭化成株式会社に入社し、

技術開発に携わっています。入社後3年間の業績が評価され、2019年に社内の「海外指名留学」制度に選抜。本来は1年間留学がルールではありますが、国内外での業務成果、研究テーマ、今後の展望などが評価され、特例として4年間のイギリス留学が認められました。現在は、インペリアル・カレッジ・ロンドン(ICL)にて、博士号を取得すべく、自動車部品設計のシミュレーション技術を研究しています。トップレベルの研究者たちと日々議論を重ねる、充実した研究生活を送りながら、欧州出身学生への研究指導や、英語での授業を実施し、教育的な役割も担っています。学生時代を支えてくださった服部国際奨学財団には、今でも大変感謝しております。

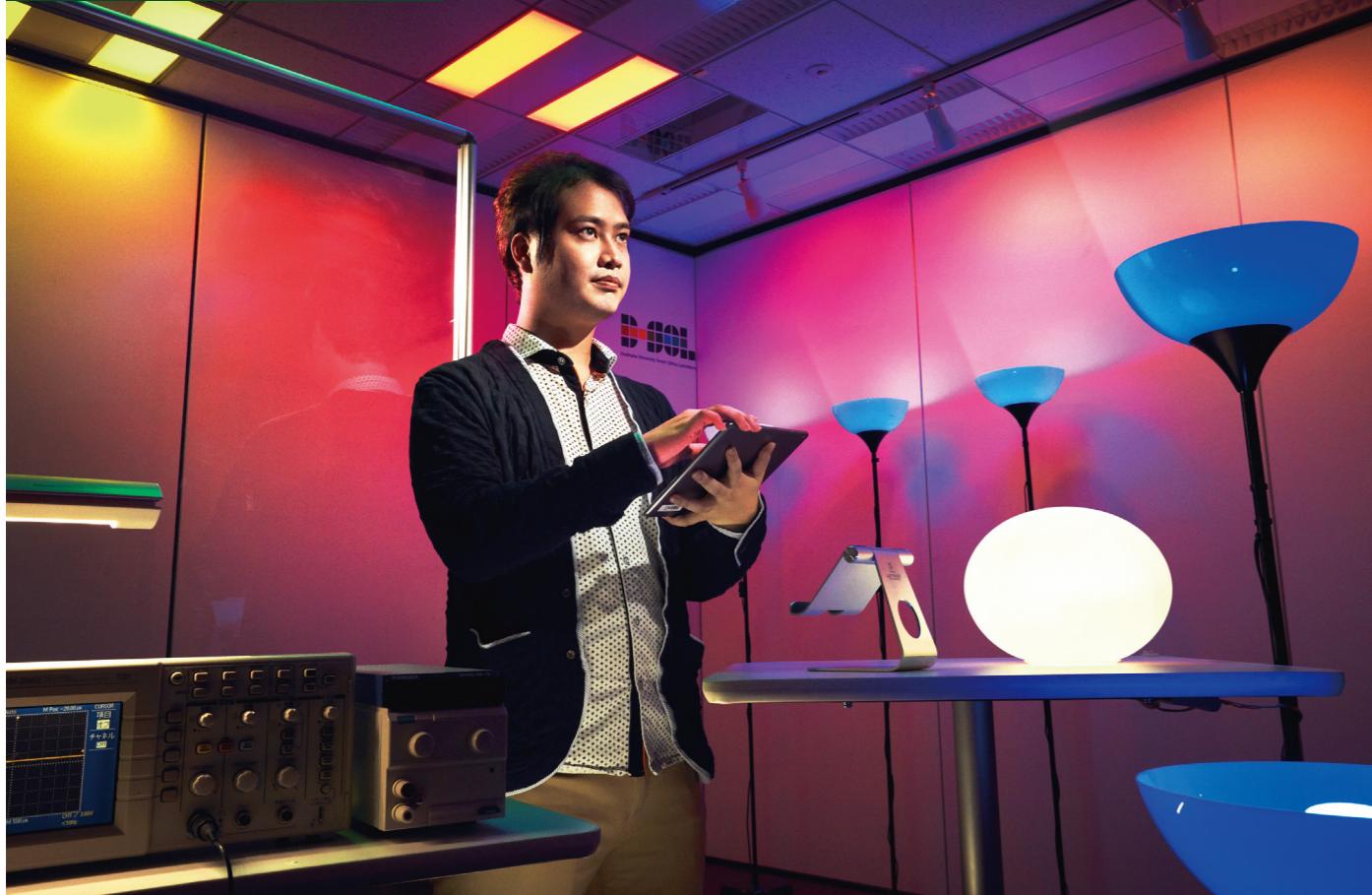
大手監査法人 監査事業部
関根 愛
名古屋大学経済学部 卒業



旭化成株式会社 係長
Imperial College London, PhD (2024年取得見込み)
藤田 雄紀
名古屋工業大学
工学研究科修士課程 修了



第7期服部奨学生 2015年～2019年



**奨学生時代の国籍や文化を超えた交流が、
グローバル企業で働く財産になる。**

2019年4月に服部国際奨学財団を修了後、現在に至るまで Amazon Web Services Japanにて、Cloud Support EngineerとしてAWSクラウドをご活用いただくお客様に技術支援を提供しています。社会人となり4年半が経過した今、日本国内のお客様に対する数千件にわたる技術支援の他、日本国外の製品開発チームとコラボレーションを行い、お客様からのフィードバックをもとに製品の改善を行ったり、国内外のエンジニアに対して社内トレーニングを提供したりと、日々グローバルな仕事に従事しています。服部奨学生として在籍していた頃は、数々の公式行事やイベントで、専攻・国籍・バックグラウンドの異なる多くの仲間と出会い、

交流を楽しみました。そんな中で、自分とは異なる考え方や価値観を持つ人々と数多く触れ合えたことは、私にとって何よりも大きな財産です。社会人となりグローバル企業で仕事をする今、こうした交流で培われた経験や感性は、特に、海外の同僚・仲間と仕事をするうえで、大きな糧となっています。OBとして、これからも引き続き服部国際奨学財団に関わっていくことで、将来に向かって駆け出している奨学生が、国際的な視野を広げる一助となりたいと思います。

第5期服部奨学生 2013年～2016年



**獣医師の立場から
人々の安全な生活に貢献し続ける。**

子供の頃から動物が好きでした。将来は獣医師になって病気の犬や猫を助けたいと志し、岐阜大学へ進学。獣医学を学ぶうちに、BSEや口蹄疫など食の安全を脅かす問題に触れ、食肉等の衛生を監視する「食品衛生監視員」の仕事に関心を持ちました。現在は名古屋市健康福祉局の食肉衛生検査所で、獣医師としての知識や技術を活かし、人々の食卓へ安全な食肉を届けるために、と畜検査業務に従事しています。他にも、と畜場内で食肉が衛生的に取り扱われているかどうかを監視したり、牛・豚の疾病について調査研究を行ったりと、食肉に関わるさまざまな業務を行っています。スーパーで、自分が検査したかもしれない精肉を見かけ

ると、獣医師の立場から人々の暮らしに貢献できたのかなと感じ、働きがいも一入。今、こうして、学生時代から夢見た仕事に携わることができてるのは、服部国際奨学財団にご支援いただき、大学で勉学に打ち込むことができたからだと思います。自分にしかできないことで、社会に貢献する。それが恩返しだと私は考えているので、知識や技術をさらに深めながら、この仕事に取り組んでいきたいと思います。

アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
富岡 亮登
同志社大学
理工学研究科修士課程 修了



名古屋市健康福祉局 食肉衛生検査所 指導管理係
間瀬 麻友子
岐阜大学
応用生物科学部 獣医学課程 卒業



第4期服部奨学生 2012年～2017年



誰かの夢のきっかけになれるような 第一線に立つ考古学者をめざす。

私が服部奨学生となったのは博士前期課程2年目のときでした。大学卒業後、一度は一般企業に就職しましたが、考古学の研究者になりたいと大学院進学を決意し、服部国際奨学財団の奨学生選考に応募しました。現在私は、特任という任期付きの役職ながら岡山大学の助教として、メキシコ現地で考古学調査を行っています。「人類の石材利用の文化史の解明」という自身の研究テーマに関連して、メキシコ・テオティワカン遺跡出土の黒曜石製遺物の化学分析や、遺跡周辺の石材の採掘跡を3次元で測量するLiDAR調査を行っています。若輩ながらも、やっと自分のことを「考古学者」だと名乗れるようになってきました。

学部時代から関わってきたテオティワカン考古学の発展の一助となるよう、自身の興味と関連させ研究を続けていきたいと思っています。大学院生だった頃から継続して現地調査を行うことができたのは服部国際奨学財団のご支援があったからであり、今でも心より感謝しています。かつてテレビに映る考古学者に憧れた私のように、誰かの夢のきっかけになれるような研究者になることがご支援いただいた恩返しだと信じて、引き続き研究活動に邁進していきます。

岡山大学 文明動態学研究所 特任助教

千葉 裕太

愛知県立大学

国際文化研究科博士後期課程 単位取得退学



第7期服部奨学生 2015年～2018年



いまだ有効な治療法のない疾病と向き合う。 創薬基盤技術開発で社会に貢献。

生殖細胞の研究を志した大学院時代。学費を稼ぐためにアルバイト漬けで研究を思うように進められなかつた中、服部奨学金のおかげで、研究に集中することができるようになりました、博士論文では自身でもよく頑張ったと思える研究成果を挙げることができました。将来はアカデミア研究者として頑張っていきたいと思っていたのですが、博士研究の成果に対して多くの反応や期待の声をいただき、次第にその成果を実用化し、社会に貢献したいという想いが強くなりました。現在は中外製薬株式会社でヒトiPS細胞由来の細胞・組織を用いた創薬基盤技術開発に取り組んでいます。試行錯誤を重ねながら、有効な治療法が確立していない

疾病に苦しむ患者さんを救うことを目標に、日々研究に取り組んでいます。服部国際奨学財団のご支援があったからこそ、私は研究に没頭した大学院生活を送ることができ、研究の先にある社会貢献へと視点を変えるきっかけを掴むことができたと思っています。

中外製薬株式会社

山城 知佳

京都大学

大学院医学研究科博士課程 修了



「絆」を、 何よりの財産に。

「服部国際奨学財団」は、
“経済的支援を通じて、優秀な外国人留学生を支えたい”という信念から、
2008年に創設されました。
そして2012年、前年の東日本大震災による甚大な被害を目の当たりにし、
震災で経済的な被害を受けた日本人学生に対する支援を開始。
翌年からは、指定国公立大学に在籍する大学生・大学院生へと対象を広げ、
現在は毎年140名を超える大学生・大学院生を、給付型奨学金で支援しています。
服部国際奨学財団では、現役の奨学生だけでなく、
OBOG、さらに事務局員や役員まで巻き込んだ、コミュニティの輪を重視します。
バックグラウンドの異なる他者との交流は、多角的な視座の涵養に繋がるだけでなく、
互いの研鑽を触発し、各々の「人間としての成長」にも大きく寄与するものです。
こうした関係性を通して育まれる「絆」こそが、
我々の誇りであり、学生たちにとっても、無二の財産になると強く信じています。

2024年1月

公益財団法人 服部国際奨学財団

理事長 濑田 大

株式会社ユー・エス・エス
代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)

